

# 行歯会だより 第148号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

令和元年11月号



## 1 第78回 日本公衆衛生学会総会 in 高知

高知県須崎福祉保健所(健康障害課) 主幹 前田 由佳

## 2 第78回 日本公衆衛生学会・歯科保健に関する自由集会の報告

国立保健医療科学院 福田 英輝

## 3 第27回 全国歯科保健推進研修会開催報告

福島県保健福祉部健康づくり推進課 副主任医療技師 安齋さや香

## 4 都道府県世話役のつぶやき ～岐阜県・北海道～

### ● 岐阜県

岐阜県立衛生専門学校歯科衛生学科 技術主査兼教務主任 安井真奈美

### ● 北海道

上川総合振興局保健環境部保健行政室(上川保健所)

医療参事 兼 北海道立旭川高等看護学院 学院長 佐々木 健

## 1 第78回 日本公衆衛生学会総会 in 高知

高知県須崎福祉保健所健康障害課 主幹 前田 由佳

行歯会の皆さま、いつもお世話になっております。高知県世話役の歯科衛生士の前田です。このたび、「実践と研究との協働の深化～マインドとコンピテンシー～」をメインテーマとして、第78回日本公衆衛生学会総会が、10月23・24・25日の3日間、高知県で開催されました。

開催前には、各地で度重なる台風被害があり、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、支援に入られた職員の方々のことを案じておりました。そのような中、「行ったことがない都道府県第2



位の高知県」に、歯科関係者の皆さまが来てくださるのか！自由集会は開催できるのか！と、当日まで関係者一同ドキドキしておりましたが、お陰様で多くの方にお越し頂き、有意義な学会・自由集会となりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

今回の学会では、口腔保健について、下記のとおり教育講演とシンポジウムが開催されましたので報告させていただきます。

#### 1 教育講演 4 「オーラルフレイル研究の現状と展望」

- ・フレイルの状態に至ると、7年間の死亡率が健常な人に比べて約3倍、身体能力低下が約2倍高くなる。
- ・オーラルフレイルは、口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え（フレイル）の一つであり、健康と機能障害との中間にあり可逆的。早めに気づき適切な対応をすることで、より健康に近づく。
- ・今後、口腔機能の評価やトレーニングの指導は歯科医療機関が担い、自宅や地域包括ケアシステムの中で継続的に取り組める仕組みづくりが必要。

#### 2 シンポジウム 25 「オーラルフレイルの予防」

- (1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について
- (2) オーラルフレイル、口腔の視点から
- (3) 健康運動士が提案する全身運動を取り入れたオーラルフレイル予防運動について
- (4) 地域高齢者における予防的対応の取り組みとしての咬合力アップ運動の効果
  - ・ 30年度に「高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン」を改定。
  - ・ オーラルフレイル群では、身体的フレイル発症リスクが2.41倍に増加し、要介護認定も2.35倍高くなる。
  - ・ フレイルの兆候は口腔から把握できるため、口腔からのアプローチの明確化と地域における医療歯科連携の構築が重要。

#### 3 シンポジウム 28 「地域歯科保健推進のための新たなう蝕予防戦略」

- (1) 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項・中間評価に基づく今後のう蝕予防対策
- (2) 日本の未処置う蝕保有者は4000万人：健康格差縮小対策
- (3) 学校保健活動におけるう蝕予防の現状と課題
- (4) 自治体担当者が地域のう蝕予防戦略を考える上で必要な視点
  - ・ う蝕は世界で最も多い疾患。我が国の30年度の学校保健統計調査では、12歳児の一人当たりの平均DMF歯数は0.74本と過去最低となり、一定の改善がみられる。
  - ・ 成人期においては、う蝕を有する者の割合が高く、いずれのライフステージにおいても依然として極めて多い。
  - ・ 有病状況には、健康格差や地域格差がみられ、う蝕治療経験では、社会経済格差も存在
  - ・ 新たなう蝕対策では、う蝕を多く抱える個人を対象としたハイリスクアプローチに加え、フッ化物応用などの健康格差縮小を目的とした集団を対象としたポピュレーションアプローチとの組み合わせが不可欠。

#### 4 最後に

私自身、前半2日間参加した中で、自由集会のスタッフや地域職域連携推進事業の示説発表をさせて頂き、シンポジウムでは、「健康経営」「受動喫煙防止対策」「オーラルフレイル」等に

参加しました。発表の準備や業務の調整等、大変なこともあります。学会に参加すると公衆衛生の動向や他の自治体の取組など様々な情報が得られ、「高知県でも頑張ろう！」という気持ちになりました。皆さま、ぜひ来年は「京都市」へ！

## 2 第 78 回 日本公衆衛生学会総会・歯科保健に関する自由集会の報告

国立保健医療科学院 福田 英輝



「第 78 回日本公衆衛生学会総会」にあわせて自由集会「公衆衛生における歯科保健を考える－災害時の話題を中心に－」を 10 月 23 日に開催しました。高知県の柳本氏をはじめ高知県の皆さま方には、自由集会の受付から情報交換会の手配にいたるまで本当にお世話になりました。改めてお礼申し上げます。自由集会の代表世話人として簡単ですが、本集会の報告をさせていただきます。なお、本報告にあたっては長会長と柳本氏からもコメントをいただきました。

当日は 37 名の参加があり、以下のプログラムにそって集会を進めました。

- 1 開会あいさつ
- 2 高知県における南海トラフ地震対策について  
高知県中央東福祉保健所 柳本祥子
- 3 災害発生時の行政における取組みの理想と現実
  - 1) 災害対策－行政の歯科専門職として考えた地域歯科保健研究会（後ゼミ）報告－  
江戸川区葛西健康サポートセンター 長優子
  - 2) 西日本豪雨から、さらに君津で感じられたこと  
東京都多摩立川保健所 柳澤智仁
  - 3) 台風 15 号 被災して見えたこと  
市原市子ども未来部子育てネウボラセンター 高澤みどり
  - 4) 全体を通して 総括的講義  
東京医科歯科大学 中久木康一
  - 5) 全体討議

最初に、高知県から南海トラフ地震等大規模災害時の歯科保健医療活動の説明、および全戸配布されている防災啓発冊子「南海トラフ地震にそなえちよき」の紹介などをいただきました。その後、台風 15 号・19 号による甚大な風水害被害に対する支援・受援の経験をもとに発表をいただきました。柳澤氏からは、被災状況の全体把握が遅れたのは「通信網」途絶による影響が大きかったとの指摘がありました。被災自治体である市原市の高澤氏からは、「避難所に住民の方々が集まらない」という状況の中で、どのように情報を伝え収集するかという新たな課題に直面したとの発表をいただきました。これらの発表を受け、中久木先生から全体総括をいただきました。

全体討議では、高知県「災害歯科コーディネーター」の役割を例に、災害時の指示系統についての意見交換がなされました。日頃からの備え（非常持ち出し袋に歯ブラシを入れる等）の啓発が重要であるにも関わらず、『そなえちよき』などの啓発冊子に記載がないといった問題も指摘されました。また他職種連携とくに保健師との連携の重要性についても活発な討議が行われました。災害対策は、災害の種類や規模、地域の特性によって様々であり、自治体職員としてさらに

広い視野にたつて備えを見直すことが必要であることの確認ができました。都道府県、保健所、あるいは市区町村とそれぞれの役割に応じた災害時の歯科保健医療について、具体的なタイムラインを考えるきっかけになりました。90分という短い時間でしたが、充実した発表と討議を重ねることができ、満足度の高い自由集会でした。

自由集会後は、飲み喰い処「せい和」さんに場所を移動しての意見交換会を行いました。鯉のたたきに始まり、高知の海幸・山幸を堪能しながら、参加者同士の本音を交えた意見交換は本当に良い思い出になりました。

来年の日本公衆衛生学会総会は10月20日から22日にかけて京都市にて開催予定です。学会参加とあわせて自由集会への参加もぜひ予定していただければと願っております。



### 3 第27回 全国歯科保健推進研修会 開催報告

福島県保健福祉部健康づくり推進課  
副主任医療技師 安齋さや香

令和元年11月1日(金)に第27回全国歯科保健推進研修会を開催させていただきました、福島県の安齋と申します。今回の研修では、北は北海道、南は沖縄県まで、多くの皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。

簡単ではございますが、研修会について御報告させていただきます。

研修会は、下記のプログラムで開催されました。

講演①「最近の歯科保健医療施策について」

厚生労働省医政局 歯科保健課  
歯科口腔保健推進室 歯科口腔保健専門官 中園 健一 氏

講演②「嚙むからはじめる<sup>けんこう</sup>健口づくりのススメ」

奥羽大学歯学部 口腔衛生学講座 教授 瀬川 洋 先生

講演③「歯科から行う子どもの食育支援」

昭和大学歯学部 小児成育歯科学講座 客員教授 井上 美津子 先生



講演①では、小児のむし歯は減少傾向、8020の達成者も増加傾向にありますが、成人の約7割が歯周病に罹患し、進行した歯周病のある者の割合は改善していないといった、歯科保健医療を取り巻く状況を紹介いただきました。また、歯科保健医療の需要と提供体制の目指すべき姿として、今後は口腔機能の維持・向上や回復、疾患等の予防、重症化予防に対する需要が増加する見込みであり、こうした需要に対応するため、各地域において歯科医療機関の役割の明示・分担を図るとともに、他職種や他分野との連携体制の構築等が求められること等を講演いただきました。

講演②では、活舌の低下や食べこぼし、わずかなむせ、噛めない食品の増加などのオーラルフレイルの紹介や食育の歴史、当県磐梯町で行われている「立歯式」（中学2年生を対象にむし歯ゼロとむし歯完全治療者の認定表彰）の紹介、しっかり噛んで食べることの大切さ、むし歯予防に効果的とされている歯磨き「イエテポリ法」や補助的清掃用具について講演いただきました。

講演③では、食育基本法が制定されてからの食育推進の流れ、歯科からの食育への取組の現状、乳幼児の歯・口の発育と食べる機能の発達、「食べる」機能・行動の発達に影響する要因、子どもの食の問題への歯科からの対応について講演いただきました。食育推進の流れでは、「食べ方」を通して、生涯にわたって安全で快適な食生活を営むことを目的とした食育を推進することや、あらゆる場と機会を通して、口の健康を守り、五感で味わえる食べ方ができる食育を推進すること等をお話いただきました。また、乳幼児の歯・口の発育と食べる機能の発達については、乳幼児期の歯の発育段階に応じた食べる機能の発達や、その時期に求められる支援等をお話いただきました。

研修会の準備中、スクリーンにパソコンの画面が映らないなど、アクシデントはありましたが、何とか研修会を終える事ができました。

また、当県の日本酒は全国新酒鑑評会において、金賞受賞数が7年連続日本一となっており、懇親会では本県の日本酒を楽しんでいただきました。

最後に、講演いただいた先生方、県内外から御出席いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 4 都道府県世話役のつぶやき

～岐阜県～

岐阜県立衛生専門学校 歯科衛生学科  
技術主査兼教務主任 安井真奈美



平素は大変お世話になっております。

行歯会の皆様から届く情報に刺激を受けて“今の自分にできること”を日々模索しながら、一步でも前に進められるよう業務を行っております。

いつも貴重な情報を頂きありがとうございます。心より感謝申し上げます。

### ● 岐阜県について

岐阜と聞いて「どこの辺り？」と言われる方も多いと思います。少しだけ岐阜のふるさと自慢をさせていただきます。

“清流の国 ぎふ”ということで、岐阜には有名な長良川があります。

春から秋にかけては鵜飼があり、長良川で取れる天然鮎は本当に美味しいです。

岐阜から少し離れたところには、郡上八幡という小さな町があります。その町は、日本三大盆踊り、秋田の「西馬音内の盆踊り」徳島の「阿波踊り」岐阜の「郡上踊り」として有名です。8月のお盆4日間は徹夜踊りも開かれ10万人が踊り明かします。

岐阜県の北には小京都と言われる高山があります。昔ながらの町並みが広がり、時を忘れる空間に癒されると同時に、飛騨牛や日本酒などの美味しいグルメも堪能できるスポットとして有名です。更に、高山から奥に行った奥飛騨には「君の名は」の映画で有名になった神岡の町もあります。奥飛騨からは優美で壮大なアルプス山脈も見られ、沢山の素晴らしい温泉も数多くあります。

また、昨年の朝ドラの「半分青い」に続いて、来年からの大河ドラマ「麒麟が来る」も岐阜が舞台となります。

お近くに寄られた際、是非一度！岐阜の旅を満喫してはいかがでしょうか。

## ● 世話役のつぶやき

現在、岐阜県立衛生専門学校において歯科衛生士教育を行っております。

本校のディプロマポリシー（卒業認定方針）の中に、「保健・医療・福祉現場の状況を理解し、地域包括ケアシステムにおける自己の役割を認識し、チームの一員として良好な人間関係を保ちながら協働活動に参加できる」「日本社会の動向に目を向け、保健・医療の専門職として必要な学習課題や目標を自ら設定し取り組むことできる。」等を掲げております。

昨今、「経済財政運営と改革の基本方針2019」においても、新たに「口腔の健康は全身の健康にもつながることからエビデンスの信頼性を向上させつつ、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策にもつながる歯科医師、歯科衛生士による口腔健康管理など歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組む」と掲げられました。

このことにおいては、今後“更に歯科衛生士への期待”が大きいことを意味すると考えております。そこで県立の学校としては、国や県の最新の動向を鑑みた教育を常に考える中で、上記のことを踏まえ、2019年度よりカリキュラム改正を行いました。

新カリキュラムにおいては、「地域包括ケアシステム」「国際歯科保健」「災害歯科保健」「食育を通じた摂食嚥下リハビリテーション」「歯科衛生過程」「多職種連携」を追加しました。

このように、歯科衛生士の業務が拡大する中で、現状の“歯科衛生士不足”は喫緊の課題です。岐阜県に一人でも多くの歯科衛生士が増えるよう、本校においても、学生確保対策を考えています。

その対策の一つとして、3年生の学生が近隣小学校に出向き、授業参観の中で歯科保健教育を実施しています。歯の大切さに加えて、歯科衛生士の仕事について、保護者の皆様にも知ってもらう機会としています。



保健教育を通じて、子どもたちや保護者からは「歯科衛生士！目指してみたい！」「かっこいい！」という声が多く聞けます。

ただ、嬉しい言葉を聴けるまでには、学生たちも保健教育の内容を試行錯誤しペーパーサートの練習を何度も行うなど授業準備にも熱が入ります。

授業直前は、子どもたちと保護者を目の前にガチガチな表情…。しかし、自分たちの努力の成果で、子どもたちの心をガッツリ掴むことができた瞬間！緊張は無くなり、堂々たる姿に変身します。授業を終えた学生の様子は本当に輝かしいもので、これが教師冥利…と思うほどです。

学生は、こういった実習を通じて“歯科衛生士のやりがい”や“歯科衛生士の仕事の楽しさ”を実感することができます。

このように、学校、そして学生から歯科衛生士の魅力を発信することで、子どもたち、更には学生をもの職業意識の芽生えに繋がり、ひいては“歯科衛生士確保のカギ”を握ることになるのでは…と考えております。

今後、“歯科衛生士のニーズ”が高まりをみせる中、私たち教員は学生たちに「夢と希望」を常に与え、歯科衛生士として誇りを持って生涯働き続けられるよう、教育していく必要があると感じております。そして、歯科診療所や病院以外にも、行政や施設、在宅など多くのフィールドがあることも伝えていきたいと思っております。

更なる“歯科医療の発展”“質の良い歯科衛生士育成”それに伴える“歯科衛生士確保”を目指し、これからも学生と共に日々精進しながら頑張ります！

## ～北海道～

北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室

(上川保健所) 医療参事

兼 北海道立旭川高等看護学院 学院長 佐々木 健

### ●最近の？ 気になる！ トピック

WHOが「Guideline : Sugar intake for adult and children.」を公表してすでに4年が経過しました。この指針のKeyとなるメッセージは「肥満やむし歯を防止するため、free sugars（遊離糖類）の1日当たり摂取量を総エネルギー摂取量の5%以下に抑えるのが望ましい。」です。しかし、これを受けた政府、学会、日本歯科医師会等による具体的な動きは未だないようです。フッ化物利用、たばこ対策、さらにヘルスプロモーションもそうだったように、日本

においてWHOの推奨を具現化する動きが出るまでには長い年月を要するのかもしれませんが。ちなみに、free sugarsとは、食品や飲料を加工する課程で加えられる単糖類や二糖類と、はちみつ、シロップ、果汁など天然に存在する糖類のことをさします。ただし、野菜、果物、牛乳に含まれるfree sugarsは除くとなっています。糖類の多くは1gが4kcalであることから、1日の摂取量は小児で約20g、成人は約25g以下が望ましいということになります。会員のみなさんなら、この量をクリアすることがいかに困難であるかお気づきのことでしょうか。あるWebサイトで「北海道で人気のおみやげトップ8」という記事を見つけたことがあります。見事にすべてが糖類や糖質が豊富に含まれるスイーツやスナック菓子でありました。筆者は公衆衛生業界に参入して30年以上経過しましたが、糖類摂取の問題は、参入当時から未解決のまま残された課題といえます。糖尿病患者サポートにおける医科歯科連携が進みつつある今こそ、歯科側から糖類や糖質の適正摂取への対応について問題提起してほしいと思っています。この問題は、言うまでもなく健康教育・保健指導程度では解決が難しく、社会的決定要因へのアプローチ、そしてポピュレーションストラテジーの出番というところまではみなさんと共通認識できると思います。問題はその先にある具体的で実効性のある解決策の企画と実行になります。そろそろなんとかしたいものです。



2019年11月9日ベルリンの壁崩壊30周年を迎えました。5月に一部残存する壁を見てきました。

## ● 世話役のつぶやき

KY先生コンビが行政歯科の最前線から退いた現在、おそらくごく少数になった“昭和”の時代から生き残り組の一人です。“heritage”と呼ばれても反論できません！（笑） 当地旭川は、執筆現在、朝から雪が降っており、このまま根雪になりそうな雰囲気です。よく北海道の人は寒さに強いんだよね！と指摘を受けますが、実は全く逆です。最近でこそ、職場は経費節約のため暖房控えめですが、各家庭では暖房器具が充実しており、建物の気密性もしっかりしているので、屋内は基本的に暖かく薄着で過ごしております。「冬も室内で半袖のTシャツ1枚でアイスクリームを食べている」というのはあながち嘘ではありません。こたつを暖房に使う中途半端に寒い地域などと比べると北海道の冬の屋内はずっと快適だと思います。外出時も比較的薄いコートやジャンパー等を着ますので、冬道で厚着をしている方をみかけると、すぐに道外からの旅行客だとわかります。一方、暑さと湿気は大の苦手です。結論としては、北海道内でしか生活したことのない人は「寒さにも暑さにも弱い」ということになります。

## ♪ 編集後記 ♪

10月23日から25日までの3日間、日本公衆衛生学会が高知県にて開催されました。お越しいただきました皆さま、ありがとうございました。（学会の報告は、今月号の行歯会だよりをご覧ください）学会・自由集会では多くの方と情報交換や現在の歯科保健業務での悩みへの助言や背中を押されるお話などもいただき、学会後の週明けからは気持ちも新たに出勤、張り切って業務に臨んだことでした。至らない点もたくさんありましたが、今回の機会と出会いに感謝です。ありがとうございました。また高知県にお越しください。（Y）

11月入ってコートも少しずつ厚手になってきてきました。関東では例年に比べ紅葉が少しゆっくりのようですが、これからが期待できそうです。そんな中、イベントをこなしながら来年度の準備が始まっています。今年も残すところ後1か月、一時マスクだらけの職場になっていましたが、こちらは少し落ち着いてきました。（S）

### 「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。